

—平成25年度—

中学入学試験問題

—国語—

《解答時間：60分》

《配点：150点満点》

—注意—

1. 問題は試験開始の合図^{あいず}があるまで開かないこと。
2. 問題用紙のページ数は、表紙を除いて18ページ、解答用紙は1枚である。不足している場合は、ただちに申し出ること。
3. 解答はすべて、問題の番号と解答用紙の番号が一致^{いっち}するよう、解答用紙の解答らん^{らん}に記入すること。所定のらん以外の解答や、不明りょうな書き方をした解答は採点しない。(※印のらんには記入しないこと)
4. 開始の合図があつたら、まず解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。

1 次の文章を読んで、あとの(1)～(9)の問いに答えなさい。

竹男がちょうど陸橋の下にさしかかったときです。

「あつ、あーっ！」

右の土手のしげみから、悲鳴^①があげられました。同時に、ダダッと土手をなにかがすべりおりてきました。

「ギャアッ！」

竹男はびっくりしました。心臓がとまったかとおもうほどでした。それでも、竹男はむちゅうでかけました。陸橋の下をこえれば、あとは下り坂です。竹男はころがるようにかけおりました。

あとは、どこをどうとおつてきたのかわからないほど、むがむちゅうでかけてかえりました。

竹男は、家へとびこむとき、あわてていたので、いやというほどガラス戸にぶつかりました。そして、あがりかまちの板の間にあおむけにひっくりかえつて、ハハーあらい息をはきました。

(それにしても、さっきの悲鳴みたいなものは、いったいなんだったんだろう。)

「なんだ、竹男だったのかい。すごい音たてるんだもの、びっくりしちゃったよ。」

母さんがとびだしてきて、いいました。

注すいか
「西瓜天神、買ってきたよ。父さんは？」

竹男は、かけながらもしつかりにぎつてきた西瓜天神の紙包みをさしだしました。

「父さんは、パチンコへいくつていつて、自転車ででかけたよ。」

「ふーん。」

竹男は、ちよつとはぐらかされたような気がしました。せつかくこわい思いをしていつてきたというのに、パチンコへいくなんでひどいじゃないか。

「ほう、いつてきたのか。竹ちゃん、がんばったじゃないか。」

安次おじさんもやってきました。

「とってもこわかったんだよ。陸橋のところ、ギャアッて、なにかが土手ころがりおちてきたんだから。」

と、竹男はおきあがつていいました。

「なにかつて、なんだい？」

「わからないよ。ぼく、うしろも見ないで、むちゅうでかけてきちゃったんだもん。もしかしたら、お化けかもね。」

「まさか。」

と、おじさんはわらいました。

そのとき、電話が鳴りました。母さんが受話器をとりあげました。

「はい、そうですが……えつ、主人が？　ほんとうですか。はい、わかりました。すぐいきます。」

母さんの声がうろたえています。

「た、たいへんよ、父さんがけがしたんですつて。救急車で佐藤病院へはこばれたんですつて。安次、いっしょにいつておくれ、あたし、足がふるえちゃつて……」

「しっかりしろよ、姉さん！」

安次おじさんは、母さんをしかりました。

竹男もいっしょにタクシーにのつて、佐藤病院へかけつけました。病院へいくまでは、けがの程度がわからないので、とても不安でした。母さんなんか、すっかりおろおろしちゃつて、

「死んじゃつたら、あたしたちどうしたらいいのかしら。」

なんていつて、おじさんにどやされました。

しかし、父さんのけがは心配していたほどではありませんでした。右足の骨折がもつとも大きなけがでした。それにしても、父さんの顔つたら、おでこと鼻の頭に、はでなすり傷をつくっちゃつて、見られたものではありません。

自転車でころんで、足をおつてしまったのだそうです。ちようど人がとおつたので、救急車を呼んでもらつたのだそうです。

「自転車でころんだぐらいで足をおるなんて、父さんの骨はよっぽどやわなんだな。」と竹男がいつたら、父さんはしぶい顔をして、度のつよいめがねの奥で、せわしなく目をパチパチやりました。だつて、父さんときたら、いつもサカナの骨を食わないと、骨がやわになるぞと、竹男にいつているんですもの。

「それでも、よかったわ。たいしたことがなくて。」

と母さんは、ほつとしていました。

翌日、竹男が学校からかえつてきたら、母さんは病院からもどつたばかりだといっ

て、服をきがえているところでした。

「竹男、ねえ、父さんったらねえ……」

そういつて、母さんはふきだしました。

「なんだよ。わらってちゃ、わからないじゃないか。」

「だって、おまえ……」

母さんは、またわらいだしました。わらってわらって、「ああ、おながいたい」というほどわらいました。やっと笑いがおさまって、母さんがはなしてくれたのは、こういうことでした。

父さんは、自転車でころんだのではないのだそうです。足をふみはずして、がけからころげおちたのだそうです。それもおちたところが、あの岡村おかむらの陸橋の土手からですって。

「えっ、じゃあ、あのときの声は……」

「そうなんだよ、きつと。」

竹男がお化けだとおもったのは、父さんが土手からころげおちたときの悲鳴だったのでしょう。

「父さんは、やはり気が小さいのね。父親の⑥かんろくを見せて、天神さまへいかせたところまではよかったんだけど、心配で心配でたまらなくなったのよ。それで、パチンコへいくなんでうそいつて、おまえのようすを見にいったってわけ。たぶん、陸橋の土手にかくれて、おまえをまつてたんだね。そのうちに足をふみはずしちゃったのね。よつぽど落ちかたがわるかったんでしょ。足をおっちゃうなんて。」

竹男は、木の幹にしがみついてかくれていたであろう、父さんの姿を想像すると、おかしくなりました。たぶん背中をまるめて、目をパチパチやっていたんでしょ。ヤブ蚊かにあちこちさされながら、がんばっていたにちがいありません。小がらで、小ぶりの父さんは、まるでおサルさんのようなかつこうだったでしょう。ヤブ蚊なんかを追いはらっているうちに、ころげおちたのかもしれない。そうおもうと、おかしさがこみあげてきてわらってしまいました。

竹男は、わらいにわらっているうちに、急に涙がでてきました。⑧「なんだか、むしうに父さんがいとおしくなってきたのです。子どものくせに、父親をいとおしいなん

ていうのはなまいきかもしれませんが、竹男はおぼえたばかりのそのことばがぴったりのような気がしました。

風采ふうさいもあがらなければ、うだつもあがらない、ただただジツチョコナだけの父さん。息子むすこに期待するあまり、いやにきびしくなったり、かとおもうと急にカホゴ⑩になったり、シヨウシンなりに息子によせるいぢずな父さんの愛情が、竹男にもなんとなくわかるような気がしてきました。

（ごめんね、父さん、わらったりして。）

竹男は、むしうに父さんにあいたくなりました。涙を手でぬぐうと、大きな声でいいました。

「母さん、ばく、病院へいつてくる。西瓜天神を父さんにわたしてくるよ。」

（長崎源之助 「西瓜天神」）

注 西瓜天神……岡村天満宮でしか売っていない、どろで作った郷土玩具がんく。竹男が天満宮に行ったことを証明するものとして、父から買ってくるように言われていたもの。

問いは次のページからはじまります。

(1) 線⑩⑪のカタカナを漢字に改めなさい。

(2) 線①「鳴」と③「鳴」とは同じ漢字ですが読みが異なります。次の1～5の文の□には、それぞれ同じ漢字を用いた熟語で読みの異なるものが入ります。それを例にならって答えなさい。

(例) 青物□は朝が早い。……□に入るのは市場(いちば)
製品の□を海外に求める。……□に入るのは市場(しじょう)

だから、答えは「市場」。

1 海の□を研究する。

□です。で早めにお召し上がりください。

2 □の横好き。

□に出て頼んでみよう。

3 □のない道は危険だ。

この水族館ではイルカショーが□をさらっている。

4 □に乗って遊ぶ。

彼と私とは□の友だ。

5 名所旧跡を□する。

今後どうなるか□だ。

(3) 線②「はぐらかされたような気がしました」とありますが、このときの「竹男」の気持ちはどのようなものだと考えられますか。その説明として次のア～オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

ア 自分がパチンコに行くことを知られたくなかったために、息子に八つ当たりをして、無理やり天神さまに行かせた父の策略をこつけいに思っている。

イ 本当は西瓜天神などほしくもないのに、たんなる息子をこらしめるための口実として天神さままで行かせた父親の本音が分かり、あつげにとられている。

ウ 竹男にとっては夜道を一人で歩いて天神さままで行くことは命がけの恐ろしい体験であるのに、父がそれを理解していないことに怒りを覚えている。

エ 一人で夜道を大変な思いをしながら天神さままで行ってきたのに、父は息子の帰りを待つこともなく遊びに出かけてしまったことばかりしている。

オ 息子を天神さまに行かせたまま、無事に帰宅したことを見届けることもせず、逃げるように家を出た父親の不可解で自分勝手な行動をいぶかしく思っている。

(4) 線④「父さんはしぶい顔をして」とありますが、それはなぜですか。次のア～

オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

ア 足を骨折してしまいすっかり意気消沈しているところへ、お見舞いに来たはずの息子にまでばかにされてとても気弱になったから。

イ ふだんから竹男に言いふくめていることを逆に竹男に言われ、言い返すこともできず、父親としてばつが悪くなったから。

ウ いくら身内とはいえ、救急車で病院に運ばれた自分の、ぶざまな顔のすり傷を息子に見られることはたえがたい屈辱だと感じたから。

エ まだまだ子どもだと思っていた息子がいつの間になまいきになり、父親の言動に反発するようになったことがやりきれなかったから。

オ おそかれ早かれ、自分のけがの原因が家族のみなに知られることとなり、自分の作戦が裏目に出たことがばれることがいやだったから。

(5) — 線⑤「あるとき」とは、どのようなときですか。文章中からぬき出して答えなさい。

(6) — 線⑥「かんろく」⑨「むしように」のここでの意味として、それぞれ次のア～オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

- ⑥ かんろく
- ア 他の人にはないような父親だけの特徴
 - イ 親としてのゆらぐことのないしつけの方針
 - ウ 一家の稼ぎ頭としての父親の存在感
 - エ 困難に直面したさいの確固たる判断力
 - オ 発言力の大きさや動作から感じられる重み

- ⑨ むしように
- ア むやみやたらに
 - イ ますますはげしく
 - ウ みかえりもなしに
 - エ 無意識のうちに
 - オ どこからともなく

(7) — 線⑦「心配で心配でたまらなくなった」とありますが、それはなぜですか。次のア～オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

ア 陸橋の土手のところが地形の上で一番足をふみ外しやすい危険なところであり、天神さまからの帰りに竹男が通ることが予想されたコースであったから。

イ お化けなどいるはずがないとたかをくくっていたものの、お化けがでるといいうわさのあるところを竹男にひとりで通らせることはとても不安であったから。

ウ 竹男に天神さまへ謝^{あやま}っていいと言ったものの、あたりは暗くなっており、視力の弱い自分には遠くからでは息子の姿を見分けられないおそれがあったから。

エ 竹男を天神さまへ行かせたことが、親の子どもに対する行き過ぎたしつけになって、子どもをいたずらに萎縮^{いしゆく}させることになりはしないかとおそれたから。

オ いくら自分が命じたこととはいえ、岡村の天神さままでの長い道のりをまだ幼い息子にひとりで往復させている間に、事故に遭^あいでもすれば大変だから。

(8) — 線⑧「急に涙ができました」とありますが、このときの「竹男」の気持ちの説明として、次のア～オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

ア 日頃息子にはがんこな姿しか見せない父だが、失敗をかくそうとしてかえって事態をひどくしてしまった事実を知り、おかしくてたまらなかった。

イ 厳しいしつけをすることもある父だが、本当は何よりも子どものことを思いやっていることがわかり、父を大切にしたいという思いがわいてきた。

ウ 竹男のことをひどくしかるくせに、自分の粗相^{そそう}のつじつま合わせに頭を悩^{なや}ますこともある父に、なんとも言えない人間としての温かみを感じた。

エ いままで自分のことばかり考えていて、父の本当のやさしさを理解できていなかった自分のおろかさや情けなさに気づき、とてもはずかしく感じた。

オ 入院するほどの大けがをしてまで自分を気づかせてくれた父に対して、今まで反発したり笑いのにしたりしていたことを、心から謝りたくなった。

(9) この文章には次の一文がぬけています。どこに入れるのが最もふさわしいですか。直前の七字で答えなさい。(。などは字数に数えます)

では、なぜ父さんは、陸橋のところへなんかいったのでしょうか。

2 次の文章を読んで、あとの(1)～(10)の問いに答えなさい。

学ぶというの^①は創造的な仕事です。

それが創造的であるのは、同じ先生から同じことを学ぶ生徒は二人とないからです。

だからこそ私たちは学ぶのです。

私たちが学ぶのは、万人向けの^②ユウヨウな知識や技術を習得するためではありません。自分がこの世界でただひとりのかけがえのない存在であるという事実を確認するために私たちは学ぶのです。

私たちが先生を敬愛するのは、先生が私の^③唯一無二性の保証人であるからです。

(a)、弟子たちがその先生から「同じこと」を^④学んだとしたら、それがどれほどすぐれた技法であつても、どれほど洞察に富んだ^⑤チケンであつても、学んだものの唯一無二性は^⑥損なわれます。だって、自分がいなくても、他の誰かが先生の教えることができるからです。

だから、弟子たちは先生から決して同じことを学びません。ひとりひとりがその器に^⑦合わせて、それぞれ^⑧違うことを学び取つてゆくこと。それが学びの創造性、学びの主体性ということです。

「この先生のこのすばらしさを知っているのは、^⑨あまたある弟子の中で私ひとりだ」という思いこみが弟子には絶対に必要です。それを私は「誤解」というふうに申し上げたわけです。

それは恋愛^⑩において、恋人たちのかけがえのなさを伝えることばが「あなたの真の価値を理解しているのは、世界で私しかない」であるのと同じことです。この先生の真の価値を理解しているのは、私しかない。

でも、「あなたの真価を理解しているのは、世界で私しかない」という言い方は、よく考えると変ですよね。

それは、「あなたの真価」というのは、たいへんに「理解されにくいもの」であるということですから。(b)、あなたは、誰もが認める美人や誰にも敬愛される人格者ではないということですから。

不思議な話ですけど、愛の告白も、恩師への感謝のことばも、どちらも「あなたの真価は(私以外の)誰にも認められないだろう」という「世間」からの否定的評価を前提にしているのです。

でも、その前提がなければ、(c)恋愛も師弟関係も始まらないのです。「自分がいなければ、あなたの真価を理解する人はいなくなる」という前提から導かれるのは、次のことばです。

だから私は生きなければならない。

そのようなロジック(論理)によって、私たちは自分の存在を根拠づけているのです。私たちが「学ぶ」ということを止めないのは、ある種の情報や技術の習得を社会が要求しているからとか、そういうものがないと食っていけないからとか、^⑦そういうシビアな理由によるものではありません。

(d)、そういう理由だけで学校や教育機関に通う人もいますけれど、そういう人たちは決して「先生」に出会うことができません。だって、その人たちは「他の人ができることを、自分でもできるようにするため」にものを習いにゆくわけですから。資格を取るとか、ナントカ検定試験に受かるとか、免状^⑧を手に入れるとか、そういうことは、「^⑨学び」の目的ではありません。「^⑩学び」にともなう副次的な現象ではありませんけれど、それを目的にする限り、^⑪そのような場では、決して先生に出会うことはできません。

先生というのは、「みんなと同じになりたい人間」の前には決して姿を現さないからです。

だって、そういう人たちにとって、先生は不要どころか邪魔なものだからです。

先生は「私がこの世に生まれたのは、私にしかできない仕事、私以外の誰によって^⑫も代替できないようなセキムを果たすためではないか……」と思つた人の前だけに姿を現します。この人のことばの本当の意味を理解し、このひとの本当の深みを知っているのは私だけではないか、という幸福な誤解が成り立つなら、どんな形態における情報伝達でも師弟関係の^⑬基盤となりえます。

書物を経由しての師弟関係というのはもちろん可能ですし、^⑭TV画面を見て、「この人を先生と呼ぼう」と思うことだって、あつて当然です。

要するに、先方が私のことを知っていようが知っていまいが、私の方に「このひとの真の価値を知っているのは私だけだ」という思いこみさえあれば、^⑮もう先生は先生であり、「^⑯学び」は起動するのです。

(内田樹『先生はえらい』)

(1) —線②④⑩のカタカナを漢字に改めなさい。

(2) (a) (d) にあてはまることを、次のア～オの中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二回使えません。

ア もちろん イ もし ウ あたかも エ つまり オ じつは

(3) —線①「創造」と同じ成り立ちのことを、次のア～コの中から三つ選んで、記号で答えなさい。

ア 敬愛 イ 習得 ウ 師弟 エ 副次 オ 関係
カ 教育 キ 現象 ク 誤解 ケ 起動 コ 技術

(4) —線③「唯一無二」とは「ただ一つだけで、他にはないということ」という意味ですが、このように漢数字を使った四字のことは多くあります。□に漢数字を補って、次の1～5のことは完成させなさい。

1 □言□句 2 □苦□苦 3 □寒□温
4 □差□別 5 □刻□金

(5) —線⑤「あまたある」⑦「シビアな」のここでの意味として、それぞれ次のア～オの中から最もふさわしいものを選んで、記号で答えなさい。

⑤ あまたある ⑦ シビアな

ア	世界中にいる	ア	同情できない
イ	すぐれている	イ	きわめてきびしい
ウ	どこにでもいる	ウ	思いやりのない
エ	数多くいる	エ	おしつけがましい
オ	この世にいる	オ	はなはだつらい

(6) —線⑥「そのようなロジック(論理)」とありますが、これはどういうことですか。五十文字以内でわかりやすく説明しなさい。(。などは字数に数えます)

(7) —線⑧「学び」の目的とありますが、筆者の考える「目的」とはどのようなことですか。文章中から四十文字以内でぬき出して、初めと終わりの五字で答えなさい。(。などは字数に数えます)

(8) —線⑨「そのような場」とありますが、これはどういう場所のことですか。四十文字以内で答えなさい。(。などは字数に数えます)

(9) —線⑪「TV」は「テレビジョン」という意味の略語ですが、次の1～5の略語の意味を、あとのア～オの中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

1 AC 2 EV 3 ID 4 BS 5 UV
ア 放送衛星 イ 交流 ウ 電気自動車 エ 紫外線 オ 身分証明

(10) —線⑫「もう先生は先生であり、『学び』は起動するのです」とありますが、これはどういうことですか。それを説明した次の文の□1～5にあてはまることを、それぞれ文章中から字数に合わせてぬき出して答えなさい。

学ぶ側に、自分が師とする人間の□¹を知っているのは自分だけだという□²さえ成り立てば、人はどのような人からでも「自分がこの世界でかけがえのない□³であるという事実」を確認できるようになり、□⁴を学ぶのではなく、自らの□⁵に合ったことがらを学び始めるのだということ。

3 次の文章を読んで、あとの(1)～(11)の問いに答えなさい。

学生にきいてみる。

「水を入れたコップのなかに、インクを一滴、落とす。インクはまもなく薄くなつて、消えてしまう。それはなぜか」

学生からは、返事がない。ただモジモジするばかり。返事を強要すると、こんな答えが返ってくる。

「そういうものだと思っていました」

ここである。科学かどうか、この態度が分かれ目になる。

世の中とはそういうものだ。それが「そういうものだと思ってました」の背景にある考えである。世の中とはつまり人が作った世界である。そこにはいろいろな約束ごとがある。約束ごととは、ほかにもいろいろやり方はあるかもしれないが、とりあえずそういうことにしておこうと、人間が決めたことをいう。人間がいわば勝手にそう決めたのだから、その世界の癖がついてしまうと、たいいていのことは「そういうものだと思ってました」で済ませることになってしまう。

朝、知り合いに出会ったら、「おはようございます」という。夜なら「こんばんは」である。なぜそういうのか。理由ははっきりしない。「そういうもの」なのである。でもべつに「おはようございます」といわなくてもいい。アメリカなら「グッドモーニング」だし、ドイツなら「グーテンターク」である。北海道なら、「こんばんは」とはいわないで、よく「おばんです」という。

私たちは魚をサカナと呼ぶ。なぜサカナであつて、カサナとかナカサとかサナカではないのか。日本語では、魚はサカナと呼ぶことになっているからである。ことばというのは「とりあえずそう決めておく」「そういうことになっている」というお話が、的に通用する世界なのである。私たちは年中ことばを使っている。だからことばの世界の癖はすぐついてしまう。魚がサカナと呼ばれることについては、明瞭な理由はない。ゲンに英語では、サカナではなく、フィッシュという。

ところが、科学が相手にするのは、世間の約束ごとではない。自然である。その自然とは、人間が作ったものではないものを指す。人間の作ったものではない世界には、「そういうことになってます」という約束ごとはない。水の中にインクを一滴落とすと、しだいにカク散して、やがて消えてしまう。消えないで、インクの一滴のままで、い

つまでも残つたつていいじゃないか。でも、実際にインクを落としてみると、どうしても消えてしまう。じゃあ、それはなぜか。

自然に対してなら、そういう質問は、いくらしてもいい。ただし、たとえばこのインクの話をきちんと説明するのは、意外にむずかしい。親に聞いても、わからないというかもしれない。あるいはこの忙しいのに、変なことを聞くな、と叱られるかもしれない。でもこのインクの話は、じつは科学で説明できるのである。

「おはようございます」に対して、「なぜおはようか」という質問をすると叱られる。「そういうことになってる」と怒られるのである。それは人の世のきまりだからである。理由はともあれ、そういうことになっているのである。科学を勉強するなら、世の中のきまりであるものと、自然のものと、その区別をまずしなければならぬ。

私が子どもだった頃も、科学的に考えなさい、などとよくいわれた。科学とは、身の回りの簡単なことに疑問を持つところから始まる。そんなふうに本に書いてあった。先生もそんなふうなことをいう。でも「身の回りの簡単なこと」についての疑問といつても、ここまで述べた例のように、いろいろある。身の回りに起こるさまざまなことごとのなかで、自然のできごとを扱うものを自然科学という。ところがそうした自然のできごとについて、「そういうものだ」と思ってしまふと、そもそも疑問なんかわからない。

科学のはじまりになるような「簡単な疑問」が、なぜふつうはに浮かばないのか。じつは世の中を楽に生きていくには、世の中のきまりを「そういうものだ」と早く思つてしまったほうが得だからである。だからインクの話も、「そういうものだ」と思つてました」という答えになる。

野球はなぜ一塁から回っていくのか。三塁から回ったら、なぜいけないのか。そんなことを考えていると、野球は上手にならない。野球は一塁から行くことに「なつて

いる」のである。なにごとであれ、「そういうことになっている」と早く思つたほうが、世の中では生きやすい。だから世の中を上手に生きようと思えば、科学的な態度はとらない方がいい。そういうことになる。世の中とは「人間が作ったもの」で、それなら「自然ではない」からである。

ふつうの人は、「簡単な疑問」を追求するより、「世の中を楽に生きた方がいい」と思っている。だから「そういうことになっている」という。でも楽に生きるのと、面

白く生きるのとは違う。私は楽に生きるより、面白く生きた方がいい。だから科学をやる。だからコップの水の中で、インクがなぜ消えるか、それを疑問に思うのである。

(養老孟司『いまを生きるための教室 死を想え』)

- (1) — 線⑦「ゲンに」⑨「カク散」のカタカナを漢字に改めたとき、同じ漢字を用いるものを、次のア～オの中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

- ⑦ ゲンに
- | | |
|---|-------------|
| ア | 思い切ったハツゲン |
| イ | 喜びをヒヨウゲンする |
| ウ | 子どもはいつもゲンキだ |
| エ | 人口のゾウゲンを調べる |
| オ | コンゲンにかかわる問題 |

- ⑨ カク散
- | | |
|---|---------------|
| ア | カクシキを尊ぶ |
| イ | セイカクな判断 |
| ウ | 道路をカクチヨウする |
| エ | 寺社ブツカクを巡る |
| オ | カクカイの著名人が集まった |

- (2) — 線⑩「の」と同じはたらきをしているものを、文章中の——線a～eから一つ選んで、記号で答えなさい。

- (3) — 線②「モジモジ」とありますが、これは同じ音をくり返して「はずかしがつている様子」を表します。同じようにしてできたことばを、次の1～3について、それぞれひらがな四字で答えなさい。

- 1 □やかましく叱りつける様子。
- 2 都合が悪いときや時間に、のんきにあらわれる様子。
- 3 ひそかに喜んでいる時に発する言葉。

- (4) — 線③「強要」の「強」は「むりに」という意味を持っています。次のア～オの漢字の上に「強」をつけて熟語を作ったとき、それが「強要」の「強」と同じ意味になるものをすべて選んで、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | 弱 | イ | 力 | ウ | 行 | エ | 固 | オ | 打 |
| カ | 引 | キ | 意 | ク | 火 | ケ | 化 | コ | 運 |

- (5) — 線④「そういうものだと思っていました」とありますが、このように答える学生と作者とは、生きる態度にどのような違いがありますか。解答らんに合うように、それぞれ四十字以内で答えなさい。(。などは字数に数えます)

- (6) — 線⑤「もの」⑥「こと」とありますが、「もの」と「こと」のどちらかとあとの語群のことばとを組み合わせでできる慣用句を考えます。このとき、次の1～4の意味になる慣用句を、例にならってそれぞれすべてひらがなで答えなさい。

(例) 人物や仕事などが、それにふさわしく実現される。

「もの」と「語群」の「なる」とを組み合わせで、答えは「ものになる」。

- 1 大きな効力をもつ。
- 2 不足する。
- 3 手に入れる。
- 4 もとめて争おうとする。

「語群」なるいうえるかくするよるこのむあたる

- (7) □にあてはまることばを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ア | 一時 | イ | 客観 | ウ | 現実 | エ | 典型 | オ | 間接 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

- (8) —線①「インク」⑧「フィッシュ」は外来語です。「イ」と「フ」で始まる外来語の1と3のセットを考えたとき、それぞれがあとのことばと関係することばになるように、にカタカナを補いなさい。

(例)

フ	イ

かざり

答えは

「イルミネーション」	「ファッション」
------------	----------

1

フ	イ

短時間

2

フ	イ

通信

3

フ	イ

部屋

- (9) —線⑪「インクの話は、じつは科学で説明できるのである」とありますが、ここで作者がふまえているのはどのようなことですか。それを説明した次の文のにあてはまる内容を四十字以内で答えなさい。(。などは字数に数えます)

科学は ということ。

- (10) —線⑫ に浮かばないのか」のにあてはまる漢字一字を答えなさい。また、その漢字を使ってできる次の1と3の意味をもつ慣用句を考えたとき、にあてはまることばを、字数に合わせてひらがなで答えなさい。

1 状況に応じた考え方ができないこと ↓ が (三字)

2 なにかよい考えはないかと、一生懸命に考えること ↓ を (三字)

3 目上の人に対して態度が生意気であること ↓ が (三字)

- (11) 次の1と5について、この文章の作者の考えに合っているものには○を、そうでないものには×を答えなさい。

- 1 水中に落ちたインクが消えてしまうことを、単に「そういうものだ」と考えるのは科学的ではない。
- 2 世の中の約束ごととは、人間が別のやり方をいっさい認めることなく、一つのきまりに決定したもののことをいう。
- 3 あいさつの言い方やものの名前が国や地域によって決まっているということについて、はつきりした理由はない。
- 4 「身の回りの簡単なこと」についての疑問は、科学の力でほとんど説明することができる。
- 5 説明さえつけることができれば、社会に対して、「なぜ」という疑問をいくらか多く持つても、それは許される。